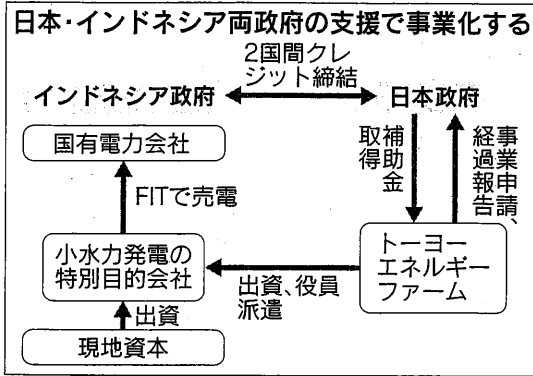


再生エネで海外進出

トヨエエネルギーファーム



再生可能エネルギー関連ビジネスを手掛けるトヨエエネルギーファーム(福島県相馬市、岡田吉充社長)は、再生エネ発電事業で海外進出する。第1弾として環境省の支援の下、インドネシアで小水力発電事業を始める。東南アジアでも固定価格買い取り制度(FIT)の導入国が拡大しており、需要開拓の余地は大きいと判断した。

まずインドネシア 小水力発電所を建設へ

インドネシアの北スマトラ州の河川で、出力1万キロワットの小水力発電所を建設する。2017年

めに建設を始め、19年1月の完成を目指す。年内をメドに現地の化学プラント会社オーナーらと合併で特別目的会社(SPC)を立ち上げる。資本金は日本円換算で約10億円で、34%をトヨエエネルギーが出資する。SPCの役員として社員2人を派遣する。総事業費は40億円。現地金融機関から借り入れるほか、日本政府が環境技術の海外移転を支援す

建設会社で培ったノウハウを生かす(トヨエエネルギーファームの事業)

- ①再生可能エネルギー
 - ・メガソーラー発電
 - ・バイオマス発電
 - ・小水力発電
- ②農業
 - ・水耕栽培農園運営
 - ・カット野菜工場
 - ・機能野菜開発
- ③コンサルティング
 - ・再生エネ事業開発支援
 - ・水耕栽培農園経営支援

る「2国間クレジット制度」による補助金も活用する。発電設備は東芝プラントシステムの製品を導入する。発電した電力はFITを活用して、インドネシアの国有電力会社に売電する。トヨエエネルギーは、建設会社のトヨエ建設(東京・葛飾、岡田吉充社長)のグループ会社として12年8月に設立。本業で培った施工管理ノウハウを生かし、国内で合計約3万キロワットの規模太陽光発電所(メガソーラー)を建設・運営している実績を持つ。バイオマス(生物資源)発

電も計画しているほか、発電以外に野菜工場など農業事業にも参入している。東日本大震災以降の環境意識の高まりに加え、

東京五輪に向けた建設特需の一巡をにらみ、環境関連をグループの重要な戦略事業と位置づけている。海外では今回の小水力を契機に、アジアでバ

イオマス発電などの再生エネビジネスを広げている計画だ。20年までに現在の3割増となる50億円程度の売上高を目指す。(榊原健)